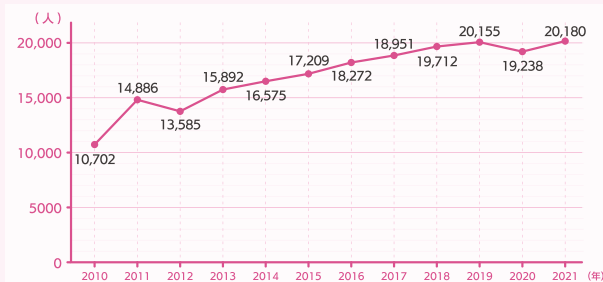




“医療的ケア”その先にある日常生活を豊かにしたい

医療的ケア児は10年で倍増し、ここ数年で、医療的ケア児を取り巻く法制定や支援事業の施行が増えつつある。現在では、日本全国に医療的ケアを必要とする児は2万人以上となり、退院後に地域・家庭へ戻り、安心して日常生活を送るための「切れ目のない支援」が急務となっている。一方、法改正など枠組みの整備が進む中で、現場では人手不足に加え、多様化する児に対応するための人材育成など多くの課題を抱えている。

その様な背景のもと“医療的ケア児モデル JANA”(裏面参照)が開発された。開発発起人である渡邊理恵先生(以下、渡邊先生)と、ユーザーである一般社団法人 日本医療的ケア看護職員支援協会の田代恵野様(以下、田代様)に、ご対談いただいた。



※1

開発
発起人

渡邊 理恵 先生

久留米大学 医学部看護学科 在宅看護学

MW77

医療的ケア児モデル

JANA

特集

ユーザー



田代 恵野 様

一般社団法人 日本医療的ケア看護職員支援協会

開発秘話

足かけ10年 皆の困りごとを反映した JANA 開発



渡邊先生

この教材は在宅療養児の父親である「モハメド・エルフェキ」氏が、可視化された練習用教材を日用品を工夫して作成したことがきっかけとなり、さらにこれまで携わった多くの立場の方々の意見を集約してこの形態と機能となったものです。

10年前

身の回りにある日用品を使用した試作

- NICUやGCUの入院長期化による病床ひっ迫→在宅への移行が進む
- 社会的支援の整備は進まず、児の介護は各家庭の裁量に委ねられた

7年間に渡り、ご家族や多職種からの意見聴取を重ね、構想を温めた

コロナ禍

久留米大学に赴任し本格的に開発を始動

- 試作モデルを送付しオンラインで講義を行うハイブリッド形式の研修会を実施
- 参加者からのヒアリング結果を集約し、モデルのブラッシュアップを繰り返した

度重なる試作改良で研究費も限界を迎えつつあった

~2024

皆の想いといくつもの追い風が JANA の製品化を後押し

- ① 研修会参加者から購入を希望する声の高まり
- ② 医療的ケア児及び家族に対する支援法案の制定
- ③ 大学(研究推進戦略センター)のバックアップ

2024年
製品化

↑日用品を使用した試作品

わたしのなまえは JANA
みんなのこえが たくさんあつまって うまれたよ
ありがとう

KYOTO KAGAKU



自己紹介をお願いします



渡邊先生

久留米大学に赴任するまでは、20年以上、鹿児島で訪問看護に携わっていました。大人のリハビリや看取りが中心でしたが、訪問看護は、地域社会のニーズがダイレクトに伝わってくる現場。あるとき、医療的ケア児の母親から訪問看護の依頼を受けました。困ったときの相談先やサポートを受ける場所がなく、経管栄養や痙攣のコントロールなど、孤軍奮闘されていることを知りました。当時私は、小児看護の経験がなかったため、外来受診に同行し、主治医の指導を受けたり、児のご家族から教えてもらいながらスタートし、徐々に、医療的依存度の高い児や重症心身障害児へと対象が広がっていきました。その経験から（一部のスタッフや母親だけでなく）皆でケアしていく必要性を感じ、約10年前、JANAの開発に着手しました。

私たち、日本医療的ケア看護職員支援協会は、医療的ケア児の通いの場の支援や、卒業後の学習サポートのほか、看護職員、介護職員等のスキルアップ、小児在宅診療で活躍されている理事3名が、2023年に発足しました。事業のひとつとして、シミュレータを使用した研修を実施しており、偶然にも、協会からお声がけしたいと考えていた渡邊先生がこのモデルの監修をされていたことが決め手となり、2024年にJANAを導入しました。現在、看護職員の育成をはじめ、介護職員を対象とした三号研修や保育園での研修など様々な場所でJANAを活用しています。



田代様

医療的ケア児に係る人材育成と JANA の活用意義についてお聞かせください

JANA は心のハードルを下げる「初めの第一歩」

■渡邊先生：訪問看護実習で、初めて気管切開や人工呼吸器を付けた患者さんの家に行くと、患者さんに近づくことを怖がる学生がいます。普段、その様な患者さんに対面する機会がないため、どうすればよいのか不安になりますよね。そこで、実習前に患者さんをイメージできる様に、JANAを使って演習を行いました。すると、実習後の学生から「患者さんの側で声かけすることができた」「(気管カニューレの)紐交換のときにサポートができた」という声を聞くことができるようになりました。

■田代様：JANAは技術習得にとどまらず、「ひとつの吸引が医療的ケア児の豊かな日常生活につながる」というイメージをもってもらうための教材であると思っています。

■渡邊先生：私たちは、気管切開の「管理」のために訪問するのではなく、気管切開をしている「人」に看護をしに行くわけです。JANAを使うことで、地域に医療的ケアを必要とする方がいることを知り、接することへのハードルを下げる「初めの一歩」につなげることができると思います。

医療的ケア児の生活は 治療ではなく日常

■渡邊先生：JANAでは、技術習得だけでなく、その後の「日常」についても考えてもらうきっかけにしたいです。医療的ケアの介入は苦痛を伴うものですが、仕方ないと我慢している患者さんも多くいらっしゃると思います。ただケアができればいいのではなく、医療的ケアの前後の変化などアセスメントに基づいて、個別性に合った質の高いケアが提供できるようになると良いですね。

■田代様：私もそう思います。医療的ケア児の生活は治

療ではないんですよね、日常なんです。だから、ただ吸引という行為ができればよいということではなくて、学校だったら「次の授業に集中して取り組めるように吸引をしてあげよう」という配慮ができるように心がけています。

■渡邊先生：子どもたちが通う保育園や学校は「医療」がベースではなく、あくまでも教育現場なんですよ。子どもたちの教育は教員が主軸で行う。そういった場所での看護は、病院とは違う配慮が必要であると思います。

それぞれの立場で できることがある

■渡邊先生：在宅で常時医療的ケアに対応しているのは「母親」が95.7%※2に上ります。その背景には、NICUに入れる人数が限定されているため母親が対応にあたり、退院後もその流れが変わらないことが一因として挙げられます。

■田代様：そうですね。それは、病院や介護の現場も然り。医療的ケアに関するレディネスは様々で、苦手意識を持つス

タッフも少なくありません。しかし、JANAでトレーニングをすることで、不安軽減や経験不足を補うことができ、皆が協力し合えるようになると思います。

■渡邊先生：医療者や非医療者に関係なく、JANAを使って医療的ケア児について知ること、それぞれの立場でできることがあると気づいてほしいな、と思います。

広がる

JANA 活用の輪

ex. 01

看護大学で

地域・在宅療養生活支援論

対象者 | 学部3年生
時間 | 講義1コマ+演習2コマ
目的 | 在宅の医療機器およびケアの特徴や管理方法を体験的に学び、支援のあり方を考える



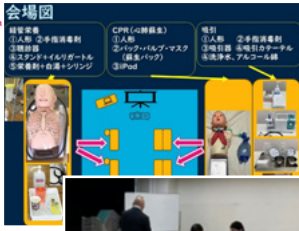
画像提供：久留米大学

ex. 02

三号研修で

通所サービスの福祉職向け研修

対象者 | 通所施設職員
時間 | 3時間
目的 | 法制度の理解
 経管栄養や喀痰吸引の習得



画像提供：一般社団法人日本医療的ケア看護職員支援協会



抱っこって意外と難しいね

ex. 03

地域の多職種連携で

小児医療的ケア研修会

対象者 | 地区の医療的ケア児支援関係者
時間 | 講義1時間+演習90分
目的 | 体内を可視化した「医療的ケア児モデル」を活用することで、医療職だけでなく、介護・保育・行政など多職種による支援の輪を広げる



画像提供：公立豊岡病院組合立 豊岡病院



子どもの気管切開口 ちいさいなあ

なるほど〜 初めて知った…

ex. 04

地域教育で

皆が暮らしやすい社会へ 啓蒙活動

対象者 | 地域住民等
目的 | 医療的ケア児について知る

今後の展望をお聞かせください

ex. 05

保育園で

医療的ケア児の入園に向けた研修

対象者 | 保育士・看護師
時間 | 1時間半
目的 | 小児の心肺蘇生を学ぶ
 てんかん発作時の対応を知る



渡邊先生

「認知症」については、最近では地域理解も高まり、患者の尊厳も守られるようになってきたと感じています。同様にして「医療的ケア児(者)」が、普通に地域で生活していることを知ってもらえるよう、JANAと一緒にすそ野を広げていきたいです。それと並行して、地域全体の医療職のレベルアップをサポートしていきたいと考えています。

医療的ケア児が、地域の中で成長できる環境づくりをしていきたいです。また、JANAと一緒に全国に出張して、各地域のニーズに応じた研修をしていきたいと思ひます。



田代様

医療的ケア児が暮らす地域社会

■**渡邊先生**：数年前のことですが、気管カニューレを付けた子ども（普段は呼吸器なしで活動）が地域の小学校に自分の足で通うことになったんです。地域の総会が開かれ JANA を用いて気管切開について説明したところ、一人の方が手を挙げてくださり、全戸に周知して下さることになりました。そのお子さんは現在も、元気に通学しています。通学時のみならず地域の行事などに参加しても、偏見や特別扱いなしに見守って下さる方が増えることが大切だと実感しています。■**田代様**：子どもたちの中には、成長につれ気管カニューレを自分で装着できるようになる子もいますが、学校で外れた際の自己装着後に医師や看護師の確認が必要なケースがありました。学校内に医師はいませんので、万が一の対応について困っていたのですが、学校の目の前にあったクリニックに相談してみたところ、二つ返事で引き受けてくださったんです。それ以降、地域連携の可能性に気づき、学校や施設近くの医療機関に相談するようになっています。



C O L U M N

取材ご協力



渡邊 理恵 先生

久留米大学 医学部看護学科 在宅看護学

在宅看護に求められる「人と繋がり人を繋ぐ」新たな力

看護も病院中心から地域でより生活に密着した活動を展開する時代となりました。生活の場で他（多）職種がそれぞれの専門性を発揮できるようなチーム作り、職種の垣根を超えて信頼関係を基盤とした繋がる力が求められています。医療・介護・保育・教育・行政のどの立場も相互に役割を理解し、信頼して任せ、療養児（者）と家族にも力を発揮していただきながら、地域で暮らす人々の豊かな生活を支えていける人材育成（仲間づくり）にこれからも注力していきたいと考えます。



田代 恵野 様

一般社団法人 日本医療的ケア看護職員支援協会



一般社団法人

日本医療的ケア看護職員支援協会

医療的ケア児・者が生涯に渡り切れ目ない支援が得られる豊かな地域生活と共生社会を目指して

障害児（者）及び日常生活において医療的ケアを必要とする児（者）が利用する福祉・教育施設等で支援に関わる看護職員の人材育成及び職能の確立等を通して、「医療的ケア児（者）」が生涯に渡る切れ目ない支援が得られ、豊かな地域生活と共生社会の実現を目的としています。

この事例で使用した製品はこちら

監修・指導：久留米大学医学部看護学科 渡邊理恵
実用新案登録 第 3245319 号（共同出願）

医療的ケア児モデル JANA

MW77 11481-000

小児（乳児）に対する医療的ケアや BLS をトレーニングし
医療的ケア児への実践的な支援を学ぶモデル



- | 気管切開部のケア
- | BLS 評価
- | 胃ろうケア、経管栄養 / 吸引カテーテルの挿入
- | 胸骨圧迫 / BVM による換気
- | 抱っこの練習

モデル&アプリで学ぶ

製品詳細はこちらから



こだわり&おすすめポイント



解剖がわかる カテーテルが見える

- ・皮膚をめくると肋骨・肺・気管支が見え 首の柔らかさも再現
- ・気管支が透明になっておりカニューレ部を可視化

心肺蘇生の評価ができる

- ・付属のアプリで心肺蘇生を自動評価
速さ（CPM）/深さ/換気量ほか正確度を算出

軽量かつ携行性が高いので すぐに使える

- ・家族間、多職種間の研修など地域で連携して活用できる



教材としての感想をお寄せください

久留米大学医学部看護学科 在宅看護学 渡邊 理恵
Watanabe_rie@kurume-u.ac.jp



※ 1 厚生労働省『医療的ケア児について』<https://www.mhlw.go.jp/content/000981371.pdf>（参照 2025 年 1 月 30 日）より作成

※ 2 渡邊理恵『医療的ケア児を地域で迎え入れる実践的連携の必要性—医療的ケア児の健やかな成長を目指して—』小児保健研究 (online), 81 号, P2-9（参照 2025 年 1 月 30 日）

お問い合わせ

修理・メンテナンス / シミュレーション教材のご用命 / 活用方法のご紹介も承ります！

✉ rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

京都本社・工場
西日本のお客様

TEL.075-605-2510
FAX.075-605-2519

東京支店
東日本のお客様

TEL.03-3817-8071
FAX.03-3817-8075

2025 年 3 月発行

最新のシミュレーション情報をお届け！

Sim Sim